

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-----------|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 玄海町立有浦中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 1 | 2 | 1 | 6 | 13 |
| 生徒数 | 53 | 40 | 52 | 1 | 146 | |

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりの学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成を目指して
 - 主体的に問題解決を目指す生徒の育成を図る指導方法の工夫・改善 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生・数学
 数学の基礎的・基本的な事項をしっかりと身に付けさせるため

2年生・国語、社会、数学、理科、英語
 きめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な事項の理解と定着を目指すため

3年生・国語、数学、理科、英語
 きめ細かな指導により、基礎的・基本的な事項の理解を図るため

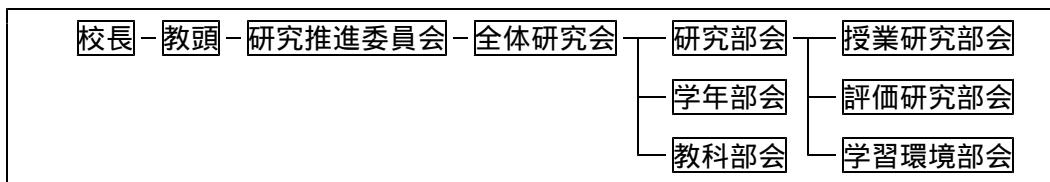
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 生徒の実態把握と具体的な改善点の洗い出し</p> <p>研究の見通し（仮説） 本校生徒の授業中や家庭での学習状況、学習環境などについての実態を把握すれば、学力向上についての方向性が明確化され、よりきめ細かな指導ができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 各部会ごとに生徒の基礎学力や授業中の学習状況、家庭学習の実態等を調査し、それをもとに改善策を検討する。また並行して、少人数指導の実施や目標に準拠した評価に関する研究を行う。</p> |
|--------|--|

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導の実践と学習環境の整備</p> <p>研究の見通し 授業の中に、可能な限り少人数指導などのきめ細かな指導を取り入れ学習に対する姿勢を身に付けさせ、学習環境を整えれば、本校生徒の基礎学力が向上するだろう。</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導やTTなどの、個に応じた指導や評価について計画し、その実践や検討を行う。また生徒の学習環境について、本校の実情に合った方策を調査、研究し、整備、調整することによって学習効果を上げる。</p> |
|--------|--|

| | |
|----------------|--|
| 平成 16 年度 | <p>テーマ 効果的な学習指導法や学習環境の改善、開発と自主性の伸長</p> <p>研究の見通し 過去2年間の研究内容を分析し、反省や改善を加え、また生徒の自主的な学習態度を育成すれば、更なる学力向上が期待できるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 3部会で蓄積してきたデータをもとに改良を加え、本校独自の指導方法や学習環境を開発していく。また、生徒の自主的な学習態度を育成するための手立てについて研究を深める。</p> |
|----------------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

| |
|--|
| <p>授業研究部会</p> <p>ア 少人数指導やTT等の授業改善 本校では2・3年生で少人数指導を、1・3年生でTTを実施し、きめ細かな指導を通して基礎学力の向上を目指した。その効果について、生徒に対する実態調査等をした結果、次のような変化が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する姿勢について 「忘れ物をしないこと」「ノートをきちんととること」「先生の話をよく聞くこと」等の基本的な学習態度についての向上が見られた。 ・TTについて 全校の約60%の生徒がTTがよいとしている。理由としては、「個人的に対応してもらえるから」というものが多かった。その他の意見の中には、「2人の教え方が違うと混乱する」というものが多く、教師間の十分な打合せが必要であることを確認した。 ・少人数指導について 全校の約75%の生徒が少人数指導がよいとしている。理由としては、「落ち着いて授業に集中でき、発言や質問がしやすい」というものが多かった。その他の意見の中には、「差別的である」というものが多く、生徒や保護者に対して事前に十分な理解を得ておくことが必要であることを確認した。 <p>以上のような結果から、少人数指導やTT等が生徒の学習意欲を高め、学習内容の理解に役立っているということが言える。</p> <p>イ 個に応じた教材や評価 公開授業などを通じて、個に応じた教材や評価の研究を進めるとともに、各教科部会を通して個に応じた指導を推進した。</p> <p>ウ 公開授業 11月に英語と音楽の公開授業を実施し、少人数指導についての研修を深めた。また、2月の公開授業では、個に応じた指導の工夫の在り方についての研修を行う。</p> <p>評価研究部会</p> <p>ア 生徒の学力分析 昨年度に引き続き、標準学力検査の結果をもとに本校生徒の学力についての分析を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の結果との比較を行い、学力の変化について分析したところ、3年 |
|--|

- 生については成績の向上が見られた。
- ・教科ごと、学年ごとに通過率の低い領域について洗い出しを行った。

- イ 分析結果をもとにした対策
- ・生徒の弱点である領域について、その内容に応じた対策を教科ごとに講じた。
 - ・日常の授業の中で、個に応じた指導の工夫等を通して基礎学力の向上を図った。

- ウ 観点別評価の充実
- ・観点別評価の定着により、生徒は自分の課題が把握しやすくなった。
 - ・学習目標の明確化が、指導内容や教材の工夫につながった。
 - ・保護者に対しても、観点別評価についての理解が得られつつある。

学習環境部会

- ア 日常的な学力向上の取組
- 基礎学力の向上には授業の改善だけでなく、授業以外の日常生活の中で学習に対する姿勢や習慣を身につける必要があると考え、次のような方策を実施した。
- ・朝の読書によって読解力の育成と1日の学習の始まりの意識をもたせた。
 - ・自主学習ノートに取り組みさせることによって、宿題以外の自主的な家庭学習習慣の育成を図った。
 - ・全校一斉小テスト（国語、数学、英語）を実施することによって、基礎学力の定着と1週間の学習リズムの確立を図った。
 - ・定期テストごとに計画と反省をきちんと実施することによって、学習状況の把握と学習習慣の確立に役立てた。

- イ 理解が不足している生徒に対する手立て
- 基礎学力が定着していない生徒に対しては、授業の中だけでなく様々な時間を使って学力の補充を図った。
- ・全校一斉小テストで基準点に満たない者は、放課後に集めて指導した。
 - ・教科や学年で補充学習の時間を設け、長期休業中には補習を実施した。
 - ・その他にも朝の始業前や昼休み、放課後などを利用して学力補充を日常的に行っており、その取組が定着してきた。

以上のような取組により、生徒の学習に対する意識が少しずつ向上し、また、基礎学力が定着していない生徒に対する学力補充の環境が充実してきた。

2. 今後の課題

少人数指導やTTに係るカリキュラム編成の工夫
習熟度別指導に関する研修
研修の時間確保
公開授業のあり方についての検討

学力把握のための学校としての取組

4月に標準学力検査を実施し、生徒の学力変化や定着していない内容についての分析、対策を行っている。
毎週全校一斉の小テスト（国語、数学、英語）を実施し、理解が不十分な生徒について個別に対応している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

11月18日：公開授業（英語、音楽）を実施し、少人数指導についての研修と研究の概要報告を行った。
2月20日：公開授業（理科、体育）を実施し、個に応じた指導の工夫の在り方について研修を行う。



- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無